

令和6年度議会報告会（質疑、意見・要望）【常任委員会別】

～事前・当日アンケート自由記述を含む～

総務建設常任委員会

*上信自動車道建設に伴う今後の町の姿について

●上信道路の開通に伴う交通の流れの変化は良くも悪くも町に大きな影響を及ぼすと思います。利点とすれば東吾妻町で生活をしていても遠方へのアクセスが便利になる。例えばJR群馬原町駅から渋川駅や長野原草津までバスを出すサービスをやったら電車があると思いませんか。町民無料は魅力的ですが、それは厳しいので学生なら電車の年間の定期より半額くらいに安く利用出来るなら町民としては喜ばしい。高齢者なら車を使わず遠くまで行くことができ電車の乗り換えのない良いサービスをご提案出来る。東吾妻町上信道チケットを年会費で販売するのも面白いかも。長野原や渋川の人も利用出来たりすると交通の中心になる可能性もある。そのように多くの場所で移動の点ではだいぶ利点があります。そして、欠点はアクセスが良いぶん東吾妻町に立ち寄る事なく目的地に辿り着けたり、逆ストロー効果が心配視されたりします。東吾妻町で生活必需品を購入出来るベシヤやAコープは上信道を降りたあと、迂回して原町バイパス通りに向かうのは利用する人へのストレスになります。そして植栗インターに降りた後の中条町の温泉地やスーパーへのアクセスはすごく良いのでそこに持っていける可能性は高い。またバイパス通りが閑散とした場合その商業施設が経営難に陥る可能性も高い。打開策は間違いなく上信道から降りた後の吾妻大橋からバイパスへ直接つながる道を作る事です。駅を日赤側に移動し、駅から病院に行く道を充実させればバリアフリーで病院にもアクセスが良い医療に特化した町にもなりえんと思います。

●上信道が開通した時の対応、川戸インターからの駅北バイパスへのアクセス、龍ヶ鼻インターにできるステーション詳しく知りたいし、出来るようにして欲しいです。

●上信自動車道（吾妻西バイパス）が開通し交通の利便性が向上しました。令和11年に吾妻東バイパスが開通すればさらに移動環境は向上すると思います。その反面、騒音と景観の環境は悪化すると考えられます。

吾妻西バイパス、吾妻東バイパスは住宅地に沿って建設されております。自然豊かな東吾妻町なのに住宅周辺のみ車の走行音が目立つ状況にあります。防音林など景観に配慮した上信越自動車道の防音対策を望みます。

【回答】上信自動車道は渋川伊香保インターチェンジ付近から、長野県の上田、上信越自動車道へ至る、延長約83キロメートルの道路であり、高規格道路に位置づけられています。災害時にも機能する道路であり、物流の効率化や観光振興など、吾妻地域の活性化支援に大きく寄与する道路であります。東吾妻町管内の全線開通は令和11年度を目標に工事が進められています。管内には6か所のインターチェンジができます。渋川伊香保インターチェンジからハツ場ダムまで約30分間短縮され、今後の観光振興に大きく期待が持てます。車の流れが大きく変化すると思われますが、インターチェンジを活用し、多くの

誘客が見込める対策が必要になってくると思います。騒音対策として、防音壁の設置等が適切に行われるよう要望をしております。

【町】

上信自動車道は次の5つの整備効果を期待して建設されています。①自然災害時の安全安心を確保、②観光誘客を後押し、③農業活性化へ、④安心な出産を後押し、⑤交通混雑の緩和の5つになります。町では上信自動車道本線工事に並行して、町民等の利便性を考慮し、町道の機能補償や側道整備等の事業を現在進めております。また、草津温泉などへの観光ルートとなる上信自動車道において、良好な景観を形成するため、渋川西バイパスから長野原バイパスまでの区間を景観誘導地域に指定してあります。景観誘導地域に指定された地域では、地域の景観特性に応じた屋外広告物の規制を行うことが可能となっています。

騒音対策については、群馬県と連携し、必要な対応を進めてまいります。

＊人口減少問題・町の活性化について

●人口減少に関わるあらゆるカテゴリーからの施策を打ち出して行かなければ、右肩下がりは止まらないと思います。この町の障害はなに？ どこにあるのか？ これを真剣に考えれば、原因は突き止められると思います。

●忍者で町おこしするならやり過ぎるくらいやりましょう。役場職員、町内事業者、学生が忍者の衣装を来て生活する非日常的日常を行う日を設けても良いと思います。当たり前の日常でもそんな日が年に1回あればそれだけで町民の思い出になります。私はやりたいです。

●ロックな町を「岩とかけています」だけで終わりにしたくないです。ロックには型にはまらない自分のありのままの行動をしようと言った意味合いがあります。1人の力ではロックな行動ただの奇行と扱われてしまいますが多くの人がやればロックな活動になるのではないのでしょうか？

●少子化で子どもの数が少ないのはどうしようもないですが、一定水準を満たすのは最低条件で町としての独自性がないと、都心部への流出は止まらず、長期的に人口も減るのは必然だと思います。この町に合うような子どもの教育環境や、保護者にとっての子育て環境を根本から見直す取り組みをしてほしいと思います。

また、本気で取り組まれている自治体は全国に少しずつ増えているので東吾妻町もそんな町の一つとして名前が上がってくれたら素敵だなと思っています。

公務でしか行えないことは沢山あるので、外部コンサルタントに頼り切りにならず、自ら積極的に勉強し本気で町のビジョンを考えた上で、お金を使ってほしいと思います。

●もっと活気ある・行きたいと思えるスーパーを増やして欲しい。

●杉並区役所での朝市や都内への販売等今年はとても頻繁に行っているとSNSで拝見しました。その実績や、どのような感じで販売されていて、どんな人が買っていか、どんなものが人気かなど、知りたい方もいるのではと思います。また、都内でのイベント参加等、興味がある方もいらっしゃると思うので、参加の募集等町報に載せてもいいのかなと思ったりします。

●杉並区との交流が進んでいるが、関西圏では野菜が高騰していて、東吾妻産の野菜を送ると喜ばれるので、関西圏との交流や販路を見出すことも必要ではないか。

●地元食材、名産として売り出そうとしているデビルズタンバーガーがあるが周知されていない。食べられる所が少ない。

●Ｕターンして移住したが実家のリノベーションした費用の補助があったが、実際の費用はもっとかかるのでもう少し手厚くしてもらいたい。また、固定資産税の免除や補助などを行い、PRすることで、Ｕターンして実家に住みたいという方もいるかと思うので検討をお願いしたい。

【回答】人口減少問題や町の活性化は、一朝一夕に打開策を見いだすことはできませんが、町民が日常生活を送る上で、安全で安心して暮らせるまちづくりをしていくためには、働く場所の確保と住みたくなる環境づくりのため、一人一人の声を行政に届けることが大切であると思います。

【町】

人口減少は、町にとって大きな課題であり、その原因を分析して対策を行う必要があります。東吾妻町を「知ってもらう」「働くことができる」「住みたくなる」「家族を持ちたくなる」ための施策を、住民参加による事業評価を踏まえて総合的に展開しています。しかしながら、地方自治体の努力だけで抜本的な改善を図ることは困難であり、国全体としてこれまでの政策対応を検証することにより根本から対策を講じていく必要があります。そうしたことから、これまで以上に、国、県、と町の連携により、重点的に取り組んでいくべきものと考えています。

忍者に関する町おこしについては、町では「岩櫃山」や「岩櫃城跡」をはじめとする歴史文化遺産と、真田氏ゆかりの吾妻真田忍者を核とした観光コンテンツの整備等を、観光協会や地域団体、民間事業者等と連携しながら推進しており、「道の駅あがつま峡」では、忍者をコンセプトとした取り組みを進めています。また、継続して「忍びの町ひがしあがつま推進事業」を推進していくことで、インバウンドを含めた観光客の誘客を図り、地域の活性化につながるよう取り組んで行く予定です。

ロックな町については、ロックな人の発掘を続けていく中で、こうした人材を点から線へと発展させていくことで、更なる展開を目指しています。

少子化の問題は、社会構造の変化や価値観の多様化、経済的な不安定さなど、複合的な要因が絡み合っていると考えられます。そうした中で独自性は、重要なポイントだと考えます。住民ニーズを踏まえた独自施策について積極的に進めます。特に少子化対策においては、多くの住民の意見を繋げられるよう取り組んでいきます。

また、スーパー等の地域の商業施設とも、今後は更なる連携を図り、魅力ある地域の創出を目指していきます。

杉並区での農産物販売については、杉並区役所での朝市、イベントでの販売について、本年度は２７回の農産物販売を予定しています。販売状況は朝市やすぎなみフェスタのような農産物販売を目的としたイベントでは購入目的でお客さんがいらっしゃいますので好調です。恒例となった朝市では開始から２時間でほぼ完売となります。七夕まつりなどイベント開催会場での販売は、お客さんは来場したついでに野菜を購入している様に見受けられます。購入者は、比較的年齢の高い方が鮮度や品質にこだわりを持って購入されてい

ます。人気のある作物は新鮮な葉物、風味が落ちやすいトウモロコシなど豆類、完熟トマト、リンゴなどです。また手作りこんにゃくは好評で、リピーターを多く抱えています。なお、販売は生産者と町職員が行い一般の方の募集は行っておりません。なるべく多くの農産物を運びたいため、少ない人数で販売しています。

関西圏での農産物販売については、杉並区での農産物販売は生産者と消費者が顔を合わせ対面で販売し、新鮮さだけでなく、生産者の見える安心さを売りにしており、生産者も含め杉並区へは日帰りが可能ですが関西は遠距離であり、また、関西圏で野菜が高騰していても費用対効果を考慮すると事業実施は困難と思われ、現在予定はしていません。

デビルズタンバーガーについては、公募委員に参加をいただいている、おらがまちづくりプロジェクト委員会にて協議を進めています。今年度は、3月にデビルズタンバーガーのイベントを道の駅あがつま峡で計画しており、町内の事業者には新たなデビルズタンバーガーを提供してもらう予定です。なお、参加事業者には新規参入についても検討をしてもらっています。今後も、知名度の向上と参加事業者の拡大に向けて取組を進めていきます。

町では、移住定住促進を図るため、住宅取得奨励補助金や若者起業支援補助金などの補助制度を取り組んでいます。今後も、制度の充実を図りながら継続して支援を行うことで、移住定住を促進して行く予定です。また、固定資産税の免除や補助などについて、現行の税条例では固定資産税の「免除や補助」はありません。ただし、住宅については、新築住宅の減額以外にも特例措置として、耐震改修等に伴う減額制度（税制上の優遇）があります。適用を受けるためには各種要件等ありますので、詳しくは税務課固定資産税係までお問い合わせください。

人口減少対策については、今後も、各ライフステージに合わせた支援の検証と施策の充実を図っていきます。

***旧役場跡地の利活用について**

●役場跡地の利用を充実化させましょう。トライアル・サウンディングによりイベントなど人が集まれる場所として利用していたが、天候の影響に左右されやすいので屋根を付けたり、地面を車椅子でも通れるくらいの舗装をすれば良いと思います。また、ある団体が資源を回収しそれをイベント運営資金に変える運動をしているが運営が少なく負担が大きいという声があります。町が発信して、町を盛り上げたい有志を募っても良いと思います。

●大きなイベント等（サスティナブルマルシェ等）もう少し早めに告知していただけたらと思います。また、出店したい方もいらっしゃるかと思うので、早めの告知をお願いしたいです。

●駅前の空き店舗を有効活用させる為に町で新たに実験店舗にできないのか。

【回答】旧役場庁舎跡地の利活用については、原町駅南まちづくり計画のにぎわい交流整備ゾーンとして位置づけられています。社会実験を通して、今後の利活用について幅広く検討しているところです。ご意見は町につなぎ、委員会でも協議していきます。

【町】

令和7年度も引き続き「トライアル・サウンディング」を実施し、利用者や来場者の意見や要望を集約し、今後の活用方法の検討を進めて行きます。

駅前の空き店舗については、個人所有なので所有者本人の合意が得られれば、実験店舗

などへの活用も町で検討できると考えます。

***公共交通関係**

●坂上のデマンドバスに、道の駅あがつま峡を加えて欲しい。さかうえ拠点バス停に、建物を立てることを20年30年後のことを考えて、少し保留にしてほしい。坂上と町全体ともっと意見を出して希望をもてる案を考えたい。

●バスが坂上の奥の方など停留所が増えて近所の方もほっとしていました。バスの停留所が増えたのはとても良かったと思います。ただ、バスの利用の仕方を知らない方が多いかもしれません。毎月回覧板などで周知するといいのではと思います。

【回答】公共交通関係では、東吾妻町地域公共交通活性化協議会を平成20年に設立し、地域公共交通計画の作成等を行い、地域住民の生活に必要なバス等の運行について協議しております。令和5年度に、町民1000人を対象に公共交通に関する町民アンケート調査を実施しております。ご意見として町につないでいきます。

【町】

道の駅あがつま峡のデマンドバス乗降ポイントへの追加については、他からも同様のご意見が寄せられているため、運輸支局等に相談し制度上実現可能か検討してまいりたいと思います。

さかうえ拠点バス停に関しましては、現在、町全体の公共交通の利便性向上や効率的な運用を目指した検討の中で重要な課題と認識しております。特に、令和7年度には実施設計を計画しており、令和9年度には路線再編を予定しております。こうした全体的な見直しの中で、長期的な視点で地域にとって最適な形を検討してまいります。

デマンドバスサービスへの安心のお声をいただき誠にありがとうございます。町としても、デマンドバスの認知度の低さを課題と捉えており、令和6年度には初めてデマンドバスの乗り方教室を開催いたしました。今後も認知度向上に向けた取組を継続して行い、デマンドバスの利用者数の増加につなげてまいりたいと思います。

***交通・安全・景観関係**

●地区で高齢者が多く除雪が大変になってきているが、除雪機の整備状況はどうなっているか、お聞きしたい。特に、ふるさと大橋は児童生徒の通学路で、今は有志がトラクターで除雪しているが、距離が長くて大変なので支援をお願いしたい。

【回答】除雪機は、原町バイパス沿いの平沢入口周辺に格納庫があります。主な部分は各地区の業者や区に委託してかいていただいている状況です。該当地区については、要望があったことを町に伝えます。

【町】

通学路の除雪であれば、小型除雪機（スノーロータリー）を建設課で保有しているので、要望があれば地区の人に貸し出しをして対応していきますので、ご連絡ください。

●植栗交差点から1つ西のところに一時停止の標識があって、道路にも、止まれの表示があります。さらに西側に新しい道路ができましたが、一時停止の標識がありません。年度初め頃、警察から一時停止の標識を新しい道路に移したいので、地域の住民の意見を聞いて

くださいと言われ、地元の会議につないだところ全員反対でした。2つ一時停止をつけられないかと提案したら、2つはつけられないということを言われました。地元からも警察にもう一度要望するつもりですが、通学路でもあるので、議会からお口添えをいただきたい。

【回答】現地を確認し、総務課の交通担当にもつないでおきます。

【町】

該当箇所について、公安委員会、中之条土木事務所、建設課で現地立会を実施し、次年度以降、新しくできた道路の付近に横断歩道と一時停止標識を設置する計画があります。横断歩道の設置に伴い、建設課の町道側溝の改良工事を実施してから、公安委員会が横断歩道と一時停止標識を設置します。

●原町駅前の空き店舗のところにつるがたくさんついていて、アーケードの屋根の部分が落ち葉でいっぱいです。近所の人々が毎日掃いていますが、あそこは町の共有部分が結構あるので、町の所有地の部分はきれいにできるんじゃないかと思います。民法を改正されたので、町の共有地の部分は、きれいにしていきたい。

【回答】町の共有地については、美化に努めるようお伝えします。

【町】

2023年3月に「群馬原町駅南側地区まちづくり計画」が策定され、暮らしたい、訪れたい「町の顔」となる賑わい交流エリアと定めた基本方針を計画しています。原町駅南口から役場旧庁舎跡地付近をにぎわい交流整備区域（重点整備地区）と定め、社会実験をととして、各種イベント開催等を実施し、町民の自発的な組織活動を促しながら施設整備の取組を行っております。また、JR群馬原町駅には、町観光協会を併設し当町へ訪れる方などへの案内役として務めております。最近では、忍者関連の民間施設も賑わいを見せているエリアでもあります。ご意見をいただきました町の所有地や公衆用道路等の美化について、群馬原町駅南側地区まちづくり計画を推進していく為のポイントでもありますので適切に対策を講じるよう努めてまいります。

●災害復旧に関する町の事業のランク別を一つしてほしいと思います。簡単な復旧と大規模な災害があると思うんですけども、大きな災害が地元でもおきていまして、町にお願いしたんですけども、結局できないという回答になっています。区長として相談されても、判断できない部分も多々あります。ランク別にしていただければ、これはA、B、Cですということでは回答できると思います。

【町】

災害の採択の要件の基本として3つの条件があります。

- ①異常な天然現象により生じた災害であること。
- ②負担法上の公共土木施設で現に維持管理されていること。
- ③地方公共団体又はその機関が施工するもの。

異常な天然現象とは、河川では警戒水位以上の水位、河岸高の5割程度以上の水位。河川以外では最大24時間雨量80mm以上の降雨、時間雨量が20mm程度以上の降雨、最大風速15m以上、地すべり、地震などが該当します。

負担法上の公共土木施設とは、河川、海岸、砂防設備、林地荒廃防止施設、地すべり防止施設、急傾斜地崩壊防止施設、道路、港湾、漁港、下水道、公園です。

また、市町村では1箇所の工事費用が60万円以上でないと適用されません。

農道、林道、水路などは農林課で復旧工事を行っています。被災した耕作地につきましては災害復旧の補助事業があります。

災害適用には様々な要件がありますので、まずは被災された本人から担当課へご連絡いただき、職員が現地を確認し、それぞれの被災状況に応じた個別の対応をしています。現状では災害事業のランク別の考えはございません。区長として相談を受けた場合は、役場担当課へ連絡をお願いいたします。

●原町の上之町会館のある丁字路、見通しは以前に比べよくなったが交通量があるので信号機の設置が可能なのか。

【町】

公安委員会に確認したところ、信号機の設置には、いくつか設置基準が設けられており、車道の幅員、歩行者の安全滞留確保、交通量、隣接する信号機との距離、信号柱の設置スペースを調査し、これらの設置基準を満たしていれば信号機の設置は可能とのことです。

●地域の自助（小水道や町道草刈り等）が限界に達している。

●町道の草刈りを実施されたい。特にブロック積天端等の町民ではできない場所。

【回答】各地区で大きな問題になっていると認識しています。委員会でも協議していきます。

【町】

日頃より地域の自助での町道の草刈り等を行っていただき大変感謝申し上げます。地域の自助の問題については当町のみならず、社会全体の問題と認識しております。何かしらの解決策を模索している最中ですが、将来的には「道路維持等包括管理事業」の実施も視野にいれながら検討していきます。

*広報関係

●回覧板、可能なら若い人向けにメーリングリストとかで回すのはまだまだ難しいでしょうか。まだまだ年配の方も多く紙での回覧が一番なのかもしれませんが、今のうちから少しずつ始めていいのではと思います。

【町】

現在の回覧板の運用についてご提案ありがとうございます。紙での回覧は、年配の方にとっては使いやすい手段であり、町としてもその点を重視しています。

しかし、若い世代に向けた情報発信の方法としては、デジタルの活用は今後の重要な課題です。来年度にはDX推進事業の一環として、LINE公式アカウントを発足予定です。このプラットフォームを通じて、町民の皆さんに最新の情報を簡単にお届けすることを検討しています。

●議会だより、町報など、とても読みやすくなりました！

●町のPR活動が大変少ないと思います。（良い補助金、イベント等全てに対して）

＊教育・子育てについて

●教育の充実化。教育費や給食費の無料化はもちろん出産お祝い金など金銭面では十分な援助を町から受けていますがどうしても知名度がありません。生活して行く上で育児の魅力はやはり養育費免除が１番ですが、子どもが立派な人間に成長して欲しいが親の思いです。子どもの成長に１番必要なのは自分で考え行動する「人間力」です。そして、人間力を身につけるには自然体験だと教わりました。東吾妻町は自然に恵まれた町です。町内の学校と協力して自然に触れる活動を強化するべきだと思います。

●子育ての支援が充実していることを、議会報告会で初めて知りました。町民に対してもこのことを周知し、自分たちの子どもや孫にこの町に住むとこんないいことがあるんだよと伝えられるといいのではないのでしょうか。

●子育て中なので支援が充実していることは知っていますし、ありがたいと感じていますが、それが当たり前だと感じている人も多いように思います。他の自治体と比較してこれだけ支援が充実しているという具体的な周知が必要ではないのでしょうか。

【回答】委員会を含め、議会の全体の中でも、町の知名度をもっと上げて、すばらしい取り組みをしているのになかなかその辺りが町内町外に伝わっていないのではないかという意見が出ていて、町に意見を述べているところです。

議員の一般質問から誕生した生涯支援年表は、昨年議会の研修で来庁した講師の先生からもお褒めの言葉をいただきました。また、動画での委員会の報告で知ったという声もいただきました。これらをもっと活用し、効率的なPRができるよう議会も協力したいと思います。

【町】

自然に触れる活動に関してのご意見をいただきましたが、学校では、森林の役割や生活と森林の関わりの学習に取り組んでいるほか、緑の少年団活動、校外学習での自然体験活動などを通じて、森林や緑化の重要性を学ぶ機会としています。

子育て支援の周知に関するご意見については、出生から成長期までの切れ目のない子育て支援制度の存在は、定着しつつあると認識しております。今後も町の魅力の一つとして、様々な情報伝達手段を活用して着実に発信していきたいと考えます。

また、家族や親族、知人などによる口伝でも有効な手段と考えられます。制度の拡散効果に保護者や町民の皆さまのご協力をお願いします。

●オンラインで授業ができないのはどうなのでしょう。子ども達は誰でも教育を受ける権利があると思います。登校できない生徒や、インフルエンザ、コロナなどの病気で学校を休んだ場合、次の授業が分からなくなり、余計に登校しにくくなります。専門的知識がないので分かりませんが、リモート授業ができる環境づくりには、そんなに時間がかかるものでしょうか。コロナ禍になってもう何年か経ちますが「環境が整っていないのでできません」という回答が続いています。環境を整えるためには他に何が必要で、どのようにすれば良いのでしょうか。

【回答】リモート授業の充実については、今の小学生中学生にはタブレット端末が１人１

台利用されています。町としては、基本的には対面授業を基本とするということで考えているようですが、委員会としては柔軟な対応を求めていると思います。

【町】

I C Tを活用した授業に関しては、現状において、技術的にオンライン授業は可能となっています。

現行の学校現場では、対面教育を重要視しており、オンライン授業の具体的な取り組みは、想定していないものの、子ども達がおかれた環境や状況に応じて対応していきたいと考えます。

今後も、デジタル機器や学習支援ソフトを活用した教育は、効果的な学習手段として活用していきます。

●子育て世代が住みやすい町づくりを…ぜひお願いします。高校生の通学費助成金もう少し上げてもらいたいです。

●若者、子育て世代が住みやすい町にして下さい！ 高校生の電車の時間に合わせてバスが利用できると本当に助かります。また、通学補助金ももう少し増やしてほしいです。

【回答】 ご意見として委員会でも協議して、町におつなぎします。

【町】

通学定期代補助金は、子育て世代の保護者の経済的な負担の軽減を図る一環として事業を導入したものです。保護者の負担割合や他にある子育て支援制度の金額などを総合的に勘案して、現行の補助水準としたものとなっています。

*医療機関（特に小児科・産婦人科）について

●医療機関体制の充実希望。産婦人科欲しい。

●我が町で出産する病院がないので、若い人に移住していただくのに、ネックになると思います。入院できる小児科ありません。死活問題です。

●子育て、医療に関しては大いに不満です。世帯当たりのばら撒き政策はやめて子育てに注力して頂きたい。産婦人科、小児医療が疎かな日赤病院は東吾妻町には無用の長物です。

【回答】 日赤の事務局と意見交換会の必要性を感じ、日赤の運営についての在り方など、委員会または議会に来て説明を頂くように町に要望していました。12月定例会中の議員全員協議会で原町赤十字病院院長ほか3名の出席をいただき、経営状況の説明がありました。議員からは経営状況や補助金以外の支援方法の質疑があり、小児科・産婦人科の充実について要望しました。

【町】

原町赤十字病院の診療科目の減少、特に産科の不在と小児科が派遣医師となったことに関して、町からも復活の要望は継続しており、東部3町村の協力のもとに医師確保対策補助金も交付しているところです。しかしながら、日赤に限らず全体的な医師不足や看護師不足は、大変深刻な状況にあります。

更なる高齢化に伴い、救急医と入院施設を備える吾妻郡の中核病院としての原町赤十字病院の存在・存続は、重要なものと捉えており、今後も地域医療体制の確保に努めます。

＊社会教育関係

●岩櫃城が国の指定になり広報の掲載や岩櫃城フォーラムなど、活動の周知は盛んに行われていることは承知しているが、資料館がないのは残念に思う。図書館がないのも、町としてどうかと思うが。

【回答】資料館については、大戸・岡崎の2カ所に現在あるが、資料の保管や維持管理をしているというような状況です。昨年度も議会報告会で同じような意見を頂き、町におつなぎはしてあります。また岩櫃に関しては、今後の管理の在り方を計画の策定している段階です。

また図書館については、各公民館や中央公民館に新たな図書を購入して、町も約3万冊の本があります。その辺りを、もう少し生かせるような提案を、今後委員会としてもしていきたいと思います。

【町】

町の資料館については、大字大戸と岡崎に民俗資料を中心に保管と管理場所として2カ所存在しています。基本は保存管理場所であるため、一般的な見学は推進していませんが、要望に応じて見学者の受入れをしています。

展示公開を主体とした資料館は確かに現在町にはありませんが、その代替えとして現在町役場の2階スペースを利用して小規模ではありますが展示ケースを置き、月1回の展示替えて町の遺跡から出土した考古資料を中心に展示を行っています。役場は常に来客がある公的施設ですので、その施設性格を活用し役場に訪れた方に対して、町の文化財を知って頂く機会の提供を行っています。

岩櫃城跡については、国指定史跡となって以降、今後の保存活用や整備方針を定めるための保存活用計画の策定作業を進めています。その中では調査によって出土した資料の保存や公開、活用方法についても議論し検討を進めていきます。現在は岩櫃城跡から出土した資料については、役場での展示コーナーで折に触れ展示することを行っています。

また、町には図書館はありませんが、中央公民館や各公民館の図書スペースの充実や、町民の要望に応え今後も本を購入していきたいと考えております。

＊福祉・衛生

●高齢福祉施設にもっと援助をしてほしい。

【町】

加加速度的に進む高齢化を踏まえ、老人福祉法や介護保険法等に則る中で、今後も高齢者福祉の充実に努めます。

議会全体

●女性議員の数が少ない（女性の声が町政に反映されない）ことについて、町議会ではどのような認識で、どのような対策を考えているかお聞きしたいです。

【回答】議員の成り手不足や女性や若い議員をもっと増やしたいと考え、今回の議会報告会でもそのような趣旨で、女性や若い世代にもっと身近に感じてもらうための取り組みとして考えております。

● 11月2日付上毛新聞報道による役場職員の公金横領事件について、町長・副町長の責任の取り方についてどう思うか。

【回答】議会としては、12月定例会で提出予定の町としての再発防止策と、町長、副町長が給料を減額する条例改正案を受けて検討いたします。

(12月定例会では、議員全員協議会で不祥事再発防止策の骨子が示された他、町長・副町長の給与の3カ月10%減額が提案され、本会議で可決されました。)

● 議員定数12名についてどう思うか。

【回答】令和5年(2023年)4月の選挙時定数を14名から12名に削減しました。県内の人口同規模自治体の議員数を考慮したのですが、東吾妻町は面積が広いということもあり、これ以上減らすことは当面難しいと考えます。

● 町執行部と町議会は車のアクセルとブレーキとも言われますが、その役割を果たしていると思うか。

【回答】町と町議会は、独立対等な立場で町政の両輪のような関係であります。町議会は、町の方向性を議論し、町の予算が正しく効率的に使われたかをチェックする役割があります。各議員の議案調査や一般質問等での個別の提言だけでなく、令和6年に設置された予算決算特別委員会で議員全員による熱心な審査を行い、チェック機能としても役割を果たすべく努めております。

● 経常収支比率の改善がみられますが、その要因についてどう考えるか。

【回答】経常収支比率、実質公債費率は現状では平行線ですが、将来負担比率については改善していると考えます。要因については、長年の町の努力もありますが、コロナ禍での行事や大規模なイベント等、事業の縮小による歳出の減少があると考えられます。今後は、光熱費や材料等の値上がりなど、歳出の増加が見込まれますので、議会としても無駄のないようチェック機能として注視していきたいと思います。

● 議会だより、町報など、とても読みやすくなりました！

● SNSの発信。中之条町のような議会モニター制度の導入。

● 議会からの発信は、SNS(特に若い人はInstagram)を使用し、動画などがあると高校生でも興味をもつのではないか。

【回答】町議会の広報活動については、議会だよりアンケートのご意見を踏まえ、委員会で協議していきます。議会だよりのアンケートは現在も行っていますので、引き続きご意見を募集します。親しみやすい議会となるよう努めてまいります。

議会だよりアンケートはこちらから →

